

交換留学報告書

派遣先	
三重大学での所属学部・研究科	人文学部 法律経済学科
学年(出発時)	3年
大学名	セントラルランカシャー大学
国	イギリス
留学期間	2023年1月15日-2023年5月19日
派遣先での身分	交換留学生

一日の生活スケジュール(通学時)		
	部活あり	学部授業あり
8:00	起床	起床
9:00	語学授業	学部授業の予習
10:00	語学授業(休憩10~30分程度あり)	
11:00	語学授業	
12:00	ALDIで食材の買い物	昼食
13:00		学部授業
14:00	友人と英会話	学部授業(休憩10~30分程度あり)
15:00		学部授業
16:00		語学授業
17:00	夜ご飯準備	語学授業(休憩10~30分程度あり)
18:00	夜ご飯	語学授業
19:00	野球部の活動	夕食
20:00	野球部	
21:00		学部授業復習
22:00	友人と映画鑑賞や飲み会	
23:00		就寝
0:00		

履修科目				
科目名	時間数/週	履修単位	使用言語	授業内容(レポート、試験、授業形態等)
Study Overseas Programme	15時間		英語	イギリスの歴史や文化
				アカデミックライティングの手法
				4技能全般の向上
				レポート(1200words)
				TELLテスト
				アンケートを取り、プレゼンを行う
Social Media and Optimisation	3時間		英語	SNSマーケティングとその最適化
				任意レポート(4000words) 添削指導あり
				街の公園などに行き、管理者にお話を伺う等

大学のサポート	
チューターの有無	なし
チューターのサポート内容	なし
語学コースの有無	フリーイングリッシュのクラスがある(参加自由)
コース名、料金、期間等	

生活	
住居のタイプ	学生寮
住居の名前	iQ Kopa(通常通年の生徒のみ、私は半期のため交渉後受入)
部屋タイプ	個室
ルームメイト(国籍)	アメリカ(4人)パキスタン(1人)
室内設備	トイレ、洗面台、ベッド、ダンス、学習机
共用施設	キッチン、テーブル、ソファ、椅子(ジム、ビリヤード、スタディールーム有り)
インターネット設備	有(無料)210Mbps程度
大学までの交通手段(交通機関、所要時間)	徒歩5分
アルバイトの有無	なし
アルバイトの内容	なし

渡航	
Visaの種類	なし(観光ビザ)
Visa申請先	
Visa取得にかかった日数	
Visa取得にかかった費用	0円
Visa取得方法、提出書類等	6ヶ月以内の滞在であれば観光ビザで入国が可能、英国外への旅行等で出入国を繰り返す、滞在期間を伸ばすことは不可
留学先大学の最寄り空港までの経路	マンチェスター空港から電車で30分
渡航費用	往復25万
ピックアップサービスの有無	有り(期間が合わなかったため自身で電車で向かったが容易)

帰国後	
留年や卒業の遅れの有無	おそらく有り
有る場合、その理由	就職活動に満足できなかったため
就職活動開始時期	2023年1月
帰国後の進路	未定

留学にかかった費用	
現地通貨＝日本円(約)	1ポンド(£)=160円～180円
保険料(海外旅行保険、国民健康保険等)	76,450円(三重大学協賛のもの)
学費(教科書代や語学コース授業料等)	0円
宿舍費(月額)	511£=84,315円(2023年1月に£2554まとめて支払い)
光熱費(月額)	宿舍費に含まれる。
食費(月額)	3-4万
その他	旅行代
留学期間中にかかった費用の合計	150万円

感想等(※800字以上で語学勉強の成果についての内容も含め、ご記入ください。)

- ・学部授業
- ・語学授業
- ・部活動(Society)
- ・日常生活

- ・旅行
- ・まずいご飯
- ・美味しいご飯

それぞれの感想について記述している。

・学部授業の感想

授業は全て英語で行われるため、リスニング・スピーキングのスキルは向上した。特に、Social Media and Optimisationのクラスではイギリス人が多く日本人は私だけで、議論のスピードが非常に速く、さらに専門用語等の英語での理解も必要であったため、英語の能力の成長を強く感じた。授業では、多い順にイギリス人、フランス人、スペイン人、インド人、韓国人がいた。授業内では、サムソンのCMなどの消費者への訴求方法などを学んだ。また、twitter やtiktokのプロモーション戦略等も取り扱っていたため、三重大学の授業にはない新規性があった。また、授業内でプレストン内にあるアベナムパークに向かい、管理者や日本風庭園の整備者のお話を聞き、カフェでコーヒーをいただくという回もあり、街と携わりながら、勉強をすることができ面白かった。先生も優しい。インド英語のため少し聞き取りにくい。

・語学授業についての感想

Study Overseas Programmeの授業では、日本人と韓国人のみであったため、現地の英語に触れる頻度は多くない。(私はセメスター2からの参加だったが、セメスター1の時期は香港人、アラブ人もいたようだ。)しかし、エッセイやプレゼンテーションにおいて、日本とは異なるルールを学ぶことができ、英国式のアカデミックライティングの知識が身についたことは非常に良かった。(例えば、エッセイではI thinkなどの一人称を使った文を使うことは避け、It might beなどの文を使うなど。)英国の歴史や文化について触れる回もあり、英語初心者の私には非常に助けになった。先生は3人おり全員優しい。

私はセメスター2(後期)からの参加だったため、参加直後の説明が不十分であったことが少し不満であった。セメスター2から参加した私と韓国人はTeamsに招待されておらず、メールが届いていなかったり、ブラックボードというアプリの存在を知らされていなかったりした。

・部活動についての感想

英国にはsocietyという日本でいうサークル活動に似たものが存在する。私は、Japanese Society(通称ジェイソク)やKorean Society(ケイソク)に所属していた。これらは、日本や韓国について興味のある現地の学生が参加するsocietyである。基本的には、飲み会の中で喋ることが主な活動であり、Jsocではアニメや漫画について喋ることができるので参加をお勧めする。KsocではKpopが爆音で流れているクラブで踊りながら、たくさんの友達を作ることができた。

Society以外にも、私はBaseball&Softball clubとHandball clubに所属していた。ここにはイギリス人が多く、現地の英語に触れる頻度は格別に高かった。そのため、アジア系以外のSocietyや部活にも参加してみることをお勧めする。特に、野球では全英で準優勝する経験も得られたため、生涯における思い出ができた。日本のスポーツのレベルは総じて高いので、運動が得意な人は是非参加し活躍していただきたい。また、練習中は会話が必要ないシーンも多いので心配は無用である。ハンドボールのレベルはあまり高いとは言えないため、三重大学で主将を務めていた経験を生かし、戦術を教え、練習メニュー等を提案した。そのためにあらかじめ英語で用語を予習していったことはためになった。

・日常生活についての感想

プレストンは比較的安全な街で、留学生が多いので多様な人種が存在している。差別を受けたことはなかった。しかし、街を歩けば大麻の匂いがすることは往々にしてあるので注意が必要である。イギリス人の友人からは、これウィードの匂いだよと教えてもらったので、そこには近寄らないようにしていた。深夜の一人歩きは危険なので、複数人で歩くようにしていた。街には広すぎる公園やショッピングモール、サッカークラブのスタジアム(トッテナムが戦いに来ていた)があり、適度に田舎であるというイメージだ。三重大学と同じぐらいの街並みであると言えるだろう。ナイトクラブやバブがあり、学生は皆そこへ行くので行ってみたい。カラオケ(高性能ではない)やボウリング場などもある。

食品はALDIが安い。惣菜はおいしいとは言えないが、生鮮品は日本と同程度の味である。M&Sは、少し値段はするがおいしい。スコーンにつけるクリームを買える。アジアスーパーで醤油や辛ラーメンを買うことができるので、日本食やアジア料理も楽しめる。

寮はアメリカ人が4人いたので、アメリカ英語も吸収できたことが面白かった。毎回挨拶がヨープロかヨーワッツアップだったのが、イギリス人と全く異なっており、非常に興味深かった。イギリス人の挨拶は大体ユーオーライ?である。

・旅行についての感想

セントラルランカシャー大学はイングランド北西部に位置しているので、イギリス全土を回るには絶好の位置である。マンチェスターやリヴァプールまで電車一本で30分で行けるためサッカー観戦、ビートルズ関連の地にも向かいやすい。ロンドンまでは電車で4時間程度かかるがビッグベンやハリポッタースタジアムがあり、ストーンヘンジへのツアーも行った。イングランド北部にはハリポッターの電車(グレンフィナン高架橋)や箒で飛ぶシーン(アニック城)のロケ地もあり、ハリポタ聖地巡りにはうってつけの位置である。グレンフィナン高架橋は電車で向かう際に、実際に電車で高架橋を通過するので興奮した。蟻が大量発生していたのでマスクがあると快適かもしれない。

国外についてはLCCを利用して、フランス・スペイン・オランダ・ベルギー等を回った。航空券が往復で3万円以下の場合が多いので(安いと5000円などもある)お勧めである。しかし、イギリスより治安が悪い国が殆どなので注意が必要。他の日本学生は大学から英国以外の旅行を禁止されている大学もあったので、三重大学は比較的寛容である。友人はチェコ等の東ヨーロッパや、モロッコに旅行していた。フランスのモンサンミッシェル、スペインのサグラダファミリアは特にお勧めである。

以下、イギリスで食べた料理の不味かったランキングである。後学にしてほしい。

1位 うなぎのゼリー寄せ この世の食べ物ではない。生臭さがゼリーに移り、凄まじい悪臭である。嗚咽と戦いながら食べることになるうえ、ぶつ切りのうなぎなので骨はでかく、食べたものではない。日本のうなぎの蒲焼が如何に素晴らしいか認識できるため、一度経験してみることをお勧めする。ロンドンで食べることができる。

2位 ハギス 食べなくてはならないが、まずい。最近ハギス単体ではなく、マッシュポテトや人参のソースとともに提供されるため、味は落ち着いている。小さいサイズのものがお勧め。

3位 ソーセージ パリッとしていない。日本のソーセージを思い浮かべながら食べるとまずい。

うまかった料理ランキング

1位 スコーン 白いクリームがうまい

2位 サンデーロースト 普通にローストビーフ。ヨークシャーブディングがうまい

3位 フィッシュアンドチップス あげただけなので逆に不味くなる要素がない

以上、感想でした。

今後留学する人へのアドバイス

- ・学部授業
- ・語学授業
- ・部活動 (Society)
- ・日常生活
- ・旅行
- ・ファッション
- ・言葉

それぞれのアドバイスについて記述している。

・学部授業

マーケティングの授業であったため、専門用語が英語かつ略語であることが頻繁にある。復習と予習が肝心である。多くの授業の中から一つを選ぶので、自身の興味にあった物を選んでほしい。語学授業と時間が被らないようにする必要がある。友人は映画や文学に関する授業でジブリ作品などについて学んでいた。

成績の評価はなく、レポート等は任意であったため、あまり心配はいらない。

イギリス人の友人を作るチャンスは多い。

・語学授業

渡英して少ししてからTELLテストを受ける必要がある。4技能のテストだが、肌感IELTS5.5より簡単。スピーキングは2人1組で喋る形式であった。5月頃に授業プログラムを全て終え、1200wordsのエッセイを提出した後にもう一度TELLテストを受ける。IELTSのテスト対策をそのまま活かすことができる。

TELLテストにおいて正答率を一定出したらコースの完了が認められるという具合である。難易度は高くないが油断は禁物である。スピーキングはお題を出されそれを生徒二人で、英語で議論するという形式だった。レポートは出題された4つのテーマから1つを選び1200単語程度で記述するというもの。参考文献が2つ提示されているが、それ以外にも参照して書き上げる。授業内でのサポートは手厚く、アカデミックライティングの手法やオンラインでの図書の検索法などを教わる。Uclanの図書館は電子書籍化が進んでおり素晴らしい。このレポートが、プログラムの中では一番体力が必要である。皆、図書館に籠り徹夜で締切前日まで格闘していた。点数は60%がアベレージだと予測しているので、あまり点数に落ち込む必要はない。

プレゼンテーションは二人1組で、イギリスに関するテーマを決め、アンケートを行い、少し解析をしてスライドを作成し発表。2組で発表を行い、英語で質疑応答、先生3人からも質問が飛んでくる。恐ろしい質問はあまり飛んでこない。

普通の授業では、学生証を教室に入る前にかざし出席を記録するので、忘れないようにしてほしい。3時間程度授業があるので、三重大にいたときより私は勉強していたと感じる。授業内では、先生はかなりゆっくり喋ってくれるので、英語に自信がない人にはお勧めできる内容である。

・部活動 (Society)

体育館の設備は三重大より圧倒的に綺麗であるので、是非参加してみてほしい。ジムの設備も大変綺麗である。部活以外にもヨガなどのイベントがある。野球部のグラウンドは少し離れたところにあるが、シャトルバスが無料で出ている。

部活動でイギリス人の友人が多くできた。そのため、皆さんにも部活動への参加をお勧めする。Instagramで情報を仕入れ、Whatsappのアプリで連絡を取ることが多かった。

JsocやKsocは少し騒がしいところで開催されることが多いので、そういう雰囲気が苦手な人は最初は抵抗があるかもしれないが、慣れれば問題ない。漫画やアニメ、ゲームの話などで盛り上がることができる。Jsocは文化祭などの催しなども行っており、力が入っていた。KsocはKpopが好きな人や韓国語が話せる人はぜひ参加してほしい。Kアイドルの事務所で働いている人などが留学生で来ており、その内情を聞くことができ面白かった。Instagramで情報を得ることが多かった。

報告書記入日

2023年5月1日